

牛群検定ビッグデータ（その18）

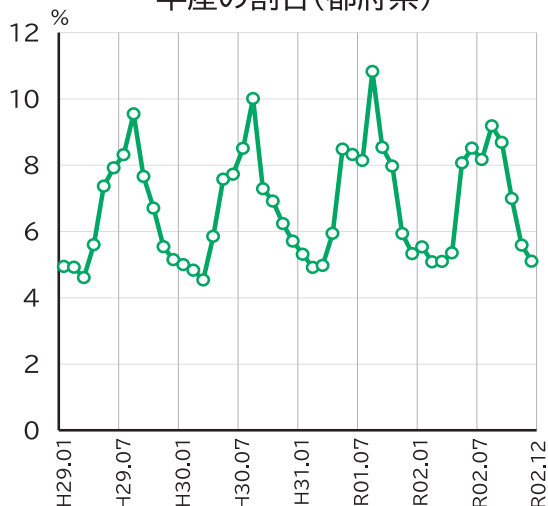
～早産の割合～

牛群検定のビッグデータから分かる色々なことを本コーナーで紹介していきます。今回は、早産の割合です。

牛群検定では授精と分娩報告から妊娠期間を計算し、180～270日を機械的に早産としています。直近4年間では、都府県で毎月約8千～1万6千件、北海道で毎月約2万4千～3万3千件の分娩報告がありました。そのうち早産であったものの割合をグラフに示しました。

都府県・北海道ともに、夏季は暑熱ストレスの影響により飼料摂取量が減る等の要因で8月に早産の割合が高くなり、12～3月は低下する傾向が見られます。暑熱ストレスの影響は都府県の方が大きいことから、夏季の早産の割合も都府県の方が高くなっているようです。

早産の割合(都府県)



早産の割合(北海道)

